

【報告】

ALPS履修証明プログラムの概要と計画 ～試行プログラムからみえてきたこと～

千葉大学アカデミック・リンク・センター
御手洗 明佳

概要

1. 背景
2. ALPS履修証明プログラムの概要
 1. 「教育・学修支援」に特化した専門的能力の育成
 2. 能カルーブリックに基づく体系的な研修プログラム
3. 試行プログラム実施
 1. 試行プログラム分析枠組みと検討課題
 2. 対象コースと調査概要
 3. コースの実施からみえてきたこと
 4. 試行プログラムを基にした本格実施に向けての開発
4. 平成29年度の実施状況・計画
 1. ALPS履修証明プログラム第1期生募集開始
 2. 2年間の受講の流れ
 3. ALPS公開講座

1. 背景

■大学教育改革

- 高等教育を取り巻く環境の変化
- 社会からの要請への対応
- 大学教育の質的転換
- 大学設置基準等の改正による「SDの義務化」

■職員の能力開発に関する議論

- 職員の職務に関わる資質・能力や専門性の調査(上西他 2008, 林 2006, 中井2014)

■大学における「教育・学修支援」に求められる専門性に関する議論

- 学務系職員のための専門能力分野(ACPA & NASPA, 2015)
- 「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目」(竹内他 2016, 岡田他 2016)

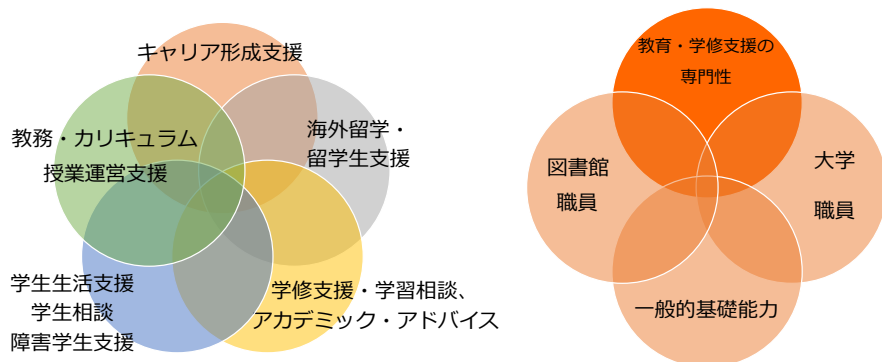
2. アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム(ALPS履修証明プログラム)

1) 「教育・学修支援」に特化した専門的能力の育成

2) 能カルーブリックに基づく体系的な研修プログラム



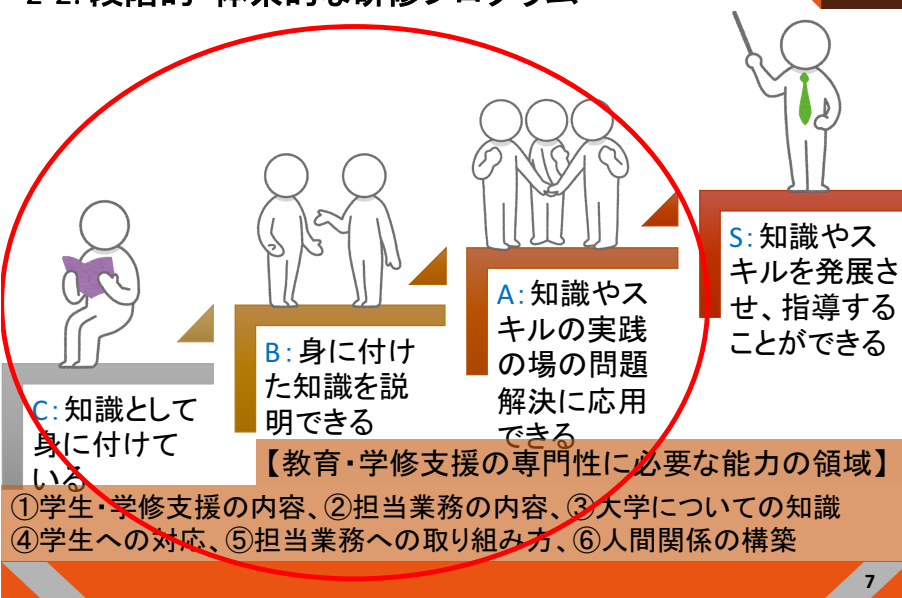
2-1. 「教育・学修支援」を捉える枠組み



2-2. 教育・学修支援専門職の専門性に必要な能力項目

	学生・学修支援への関心	担当業務の遂行	大学職員としての共通性
理解する内容	①学生・学修・教育支援の内容 <ul style="list-style-type: none"> 教育内容の把握 学生・学修・教育支援の内容の設計と実施 学生・学修・教育支援活動のプログラム改善 学生・学修支援の現状理解 	②担当業務の内容 <ul style="list-style-type: none"> 課題の設定と問題解決 情報収集・整理・分析・発信 業務に関する知識 様々な経験とその活用 	③大学についての知識 <ul style="list-style-type: none"> 高等教育・社会教育に関する知識 所属大学についての理解
対人関係	④学生への対応 <ul style="list-style-type: none"> 学生対応への基本的姿勢・態度 留学生への対応 困難を抱えた学生への対応 	⑤担当業務への取り組み方 <ul style="list-style-type: none"> 担当業務の遂行 チームワーク 	⑥人間関係の構築 <ul style="list-style-type: none"> 人的ネットワーク 教員との連携・協働
基盤的スキル	基盤的スキル キャリアアップの取組、ICTスキル、物事を広くみる、語学、クリティカルシンキング、説明できる力、文章作成能力、メタ的な能力、(社会人としてのコンピテンシー)		

2-2. 段階的・体系的な研修プログラム



2-2. プログラム内容

【基盤的テーマ】

- 1)高等教育政策と自校理解
- 2)カリキュラム理解
- 3)学生の抱える困難の理解と支援
- 4)コミュニケーションとカウンセリングの基礎
- 5)高等教育の国際化対応
- 6)教育のIR入門:教育データの分析と活用
- 7)教育のICT化と教材開発支援
- 8)学修支援とアカデミック・アドバイジング
- 9)教育方法・教育評価
- 10)学生・学修に対する理解
- 11)ラーニングコモンズの運営

- ・教育・学修支援の専門性向上に必要なテーマを**15テーマ設定**
- ・1テーマ8時間
- ・各テーマごとに**修了証書**を発行
- ・各テーマごとに到達目標及び獲得できる知識・スキルを明示

【総合的テーマ】

- 12)教育・学修支援マネジメント(1)
- 13)教育・学修支援マネジメント(2)

【総括的テーマ】

- 14)プロジェクト研究
- 15)プロジェクト実習



3. 試行プログラムの実施

ALPS 平成28年度に一部コースを試行的に実施

プログラム15テーマ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
各コースが、ルーブリックの各領域のS・A・B・Cの段階のどこに対応するかを示したもの															
ルーブリックの領域															
①学生・学修・教育支援の内容	C	B	C	C	C	B	B	B	B	B	B	C	B	A	A
②担当業務の内容	-	-	C	-	-	B	C	-	-	C	-	C	B	A	A
③大学についての知識	C	B	-	-	C	C	B	C	B	C	-	C	B	A	A
④学生への対応	-	C	B	B	B	-	-	B	-	B	B	C	B	A	A
⑤担当業務への取り組み方	-	-	C	B	-	-	-	C	-	C	C	C	B	A	A

目的: 試行の実施から得られた「受講生のニーズ」や「課題」を今後のプログラム運営に活かすこと。

3-1. 試行プログラム分析枠組みと検討課題

基盤的コースの共通要素

■全体で約8時間のコース設計 ■eラーニングと対面授業の実施



検討課題: どのような形式・要素が効果的なのか。

3-2. 対象コースと調査概要

対象コース:

- 平成28年度に試行的に実施した3コース。
 1. 教育のICT化と教材開発支援(8~9月実施)
 2. 学生・学修に対する理解(2~3月実施)
 3. 教育方法・教育評価(2~3月実施)

調査方法:

- ①各コースにおいて様々な方法を適用する
- ②コースを修了した受講生へのアンケート調査
 1. 教育のICT化と教材開発(アンケート1)
 2. 学生・学修に対する理解(アンケート2)
 3. 教育方法・教育評価(アンケート2)

教育のICT化と教材開発

申込期間: 平成28年7月22日～8月28日

eラーニング視聴期間: 平成28年8月19日～9月8日

対面授業実施日: 平成28年9月9日

登録者: 30名, **修了者:** 25名

アンケート1: (Moodleのアンケート機能を使用)

実施期間: 平成28年9月16日～9月30日(15日間)

回答者数: 14名, **回収率:** 56.0%

主な質問項目: 動画教材の使用感、受講コースの満足度、コース実施日程・受講料・会場について等。

学生・学修に対する理解/教育方法・教育評価

申し込み期間: 平成29年1月16日～1月27日

eラーニング視聴期間: 平成29年2月9日～3月8日

対面授業実施日: 平成29年3月9日～10日

コース登録者(学生・学修): 59名, **修了者:** 50名

コース登録者(方法・評価): 35名, **修了者:** 27名

アンケート2: (Moodleのアンケート機能を使用)

実施期間: 平成29年3月10日～3月31日(21日間)

回答者数: 46名(全54名), **回収率:** 88.9%

主な質問項目: 受講理由、受講する際に期待したもの、受講して得られた成果、コースへの満足度、受講生の基本属性。

コース開発の組み合わせ比較表

	教育のICT化	学生・学修支援	教育方法・評価
【eラーニング】 動画形態	講義形式(スタジオ) 動画形態	講義形式(教室)	教材形式(対談)
【eラーニング】 時間	短い	長い	短い
【対面授業】 授業方法	演	講義	協同

基礎習得
—
体験形式

講義型
—
知識習得形式

事前学習
—
協同学習形式

3-3. 試行プログラム実施からみえてきたこと

コース全体の満足度

- 「教育のICT化」 78.6% (とても満足＋満足、以下同様。)
- 「学生・学修の理解」 88.1%
- 「教育方法・教育評価」 92.0%

eラーニング

- eラーニングの教材の時間の長さ
満足度やコース修了時の成果に影響を及ぼすことは確認されない。
- eラーニングに対するニーズ
動画視聴機能の整備及び動画で使用了資料(講義スライド)の掲載を希望する傾向がある。

3-3. 試行プログラム実施からみえてきたこと

対面授業の方法

- 授業方法が、「知識・技能の獲得」に影響を及ぼすことは確認されない。
- 一方、「受動的な授業形態」よりも「能動的な授業形態」の方が、受講コースの成果を「得られた」と評価する傾向がある。
- 協同学習の方法を取り入れたコースでは、そうではないコースより「他大学との交流の機会」が「得られた」と評価する傾向がある。

17

3-4. 試行プログラムを基にした本格実施に向けての開発

- ◆2年間のプログラム全体の成果検証
 - ・履修者として
 - ・プログラムとして
- ◆履修証明プログラムとしてのBlended learningの課題と可能性
 - ・受講生の参加制約への配慮
 - ・eラーニングへの関心高い
 - ・参加のしやすい対面授業の設計
 - ・プログラム全体としての最適配置



18

3-4. 試行プログラムを基にした本格実施に向けての開発



19

4. 平成29年度の実施状況・計画

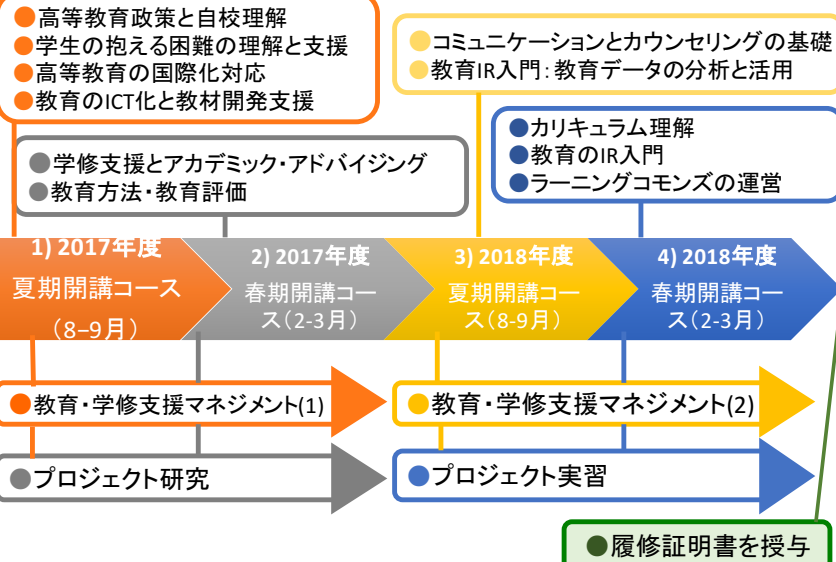
—ALPS履修証明プログラム第1期生募集開始—

- ◆申込対象者
現在、教育・学修支援に携わっている・今後携わりたいと案がえている大学教職員や大学院生、その他大学関係者。
- ◆申込期間
平成29年7月3日(月)～7月20日(木)
- ◆受講期間
平成29年8月上旬よりeラーニング受講開始
平成29年度夏期対面授業:9月11～13日(3日間)
- ◆募集定員
30名(千葉大学からの参加者を含む)

詳細は、ALPSプログラムウェブサイトに掲載中
https://alc.chiba-u.jp/ALPS/sd/sd_20170703.html

20

2年間の受講の流れ<第1期生の場合>



4.平成29年度の実施状況・計画

平成29年度アカデミック・リンク教育学修支援専門養成 公開講座(ALPS公開講座)の実施

- ALPS履修証明プログラムの一部を公開講座として実施
- 公開講座を修了した場合、当該講座の「修了証書」を授与
- 次年度以降、ALPS履修証明プログラムを受講する場合、当該コースの受講を免除。ただし、受講料の減免はなし。

平成29年度第1回ALPS公開講座 「学生の抱える困難の理解と支援」

◆目的

本講座では、大学における学修支援業務で必要とされる知識として、学修の場面や学生生活において学生がどのような困難を抱えているか、それにどのように対応するか、学内外の組織間連携のあり方などを修得し、応用することを学びます。

- ◆キーワード 発達障害、身体障害、精神疾患、学生生活
- ◆申込み開始 2017年7月下旬を予定
- ◆eラーニング受講期間 平成29年8月22日(火)～9月11日(月)
- ◆対面授業実施日 平成29年9月12日(火) 14:00～18:00
- ◆募集定員 30名(先着順)
- ◆受講料 10,000円

参考文献

- ACPA & NASPA.(2015).Professional Competency Area for Student Affairs Educators, (http://www.naspa.org/images/uploads/main/ACPA_NASPA_Professional_Compencies_.pdf) (2017年6月10日最終閲覧)
- 林一夫(2008)「大学職員の今後のあり方・役割,取得すべき能力や知識技術—教務系職員を中心として」『大学教育学会誌』28(2),101-107.
- 中央教育審議会(2012)『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて—生涯学び続け,主体的に考える力を育成する大学へ—(答申)』(<http://www.mext.go.jp/bmenu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm>)(2017年6月3日アクセス)
- 中井俊樹(2014)「教学マネジメントにおける大学職員の役割」『高等教育研究』17,95-112.
- 岡田聡志・白川優治・米田奈穂・谷奈穂・御手洗明佳・多田伸生・奥田聡子・竹内比呂也(2016)「教育・学修支援に求められる大学職員の資質・能力と専門性に関する探究的研究」『大学教育学会誌』第38巻2号, 47-56.
- 竹内比呂也・白川優治・山崎千鶴・井上真琴(2016)「これからの大学における教育・学修支援の専門性」『大学教育学会誌』第38巻2号, 99-103.
- 上西浩司・中井俊樹・齋藤芳子(2008)「教務部門が求める教務担当職員像—教務部門事務責任者への全国調査結果」『大学行政管理学会誌』12,179-186.